令和2年度
前橋・高崎連携事業文化財展

東国千年の都

発掘調査最前線

東国文化の中心地を掘ってみた

元総社蒼海遺跡群(137)
八稜鏡

高崎城遺跡
「鷹匠町」瓦

上細井中近郊遺跡群
須恵土師「賀」

鼎周野上横道遺跡
鍋を描いた線刻のある
伝鞴羽口

高崎城遺跡
平安時代軒丸瓦

小鳥河遺跡群西大室七ツ石遺跡
小鳥河遺跡群大室ムカデ池跡

赤見山古墳群第1号墳出土土師

前橋・高崎連携事業文化財展の開催にあたって

平成19年度から始まった前橋・高崎連携事業文化財展は、今年度で14回目を迎えます。前橋市と高崎市が協力し、毎年テーマを変えて、それぞれが所有する歴史的資産の一端を紹介してまいりました。

今回は近年の発掘調査で新たに発見された埋蔵文化財や歴史資料などを紹介する速報展になります。発掘調査の成果を皆様に公開することで、地域への関心をさらに高めていただくとともに、文化財の保護と活用について理解を深めていただきたいと考えています。

前橋・高崎連携事業文化財展が、前橋市と高崎市それぞれの地域の歴史や人々の営みを知り、その地域の特性を理解する契機となり、ひいては両市民相互の交流や連帯意識の醸成に寄与することとなれば幸いです。

前橋市長
山本　龍

高崎市長
富岡 賢治

〔主催〕前橋市教育委員会、高崎市教育委員会

〔後援〕上毛新聞社、朝日新聞前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局
NHK前橋放送局、群馬テレビ(株)、J:COM群馬、(株)エフエム群馬、㈱えふえむCITYエフエム、スタジオ高崎、(公財)前橋観光コンベンション協会、(一社)高崎観光協会

遠見山古墳

全景▶

遠見山古墳は、前橋市西部の総社町総社にある５世紀後半に築造されたと考えられる古墳である。江戸時代初頭に総社城の物見台として使われていたと伝えられている。現状の墳丘の大きさは約70mを測る。

平成29～30年度にかけての範囲内容確認調査では、墳丘を美しく飾る葺石も姿をあらわした。

調査の結果、墳丘の全長は87.5m、後円部径52.5m、前方部幅58mと非常に大きな前方後円墳と判明した。過去の調査で確認された堀が古墳の外堀であれば、古墳の全長は136mとなり、高崎市井出二子山古墳や保渡田八幡塚古墳といった同時期の大型古墳に次ぐ墳丘サイズである。墳丘部の調査では、くびれ部で「埴輪列」が確認でき、墳丘形状の復元過程では前方部北側に「造出部」を設けていた可能性があることも初めてわかった。このほか、前方部北側の墳丘上で、つくりの丁寧な土師器の高坏、甕や椀といった器種が出土しており、墳丘上での祭祀跡と考えられる。古墳時代中期の大型墳において墳丘上の祭祀事例は少なく、当時の祭祀行為を考える上で重要な事例と言える。

▲ 墳丘の葺石

▲ 墳丘くびれ部の埴輪列

小稲荷遺跡群西大室七ツ石遺跡

▲ 3・4号墳全景空中写真(真上から)

西大室七ツ石遺跡は、前橋市東部の西大室町にあり、古墳５基(小石槨を３基含む)縄文時代早期稲荷台式期の竪穴住居跡１軒(本市内で２例目。)及び土坑２基が検出された。このうち３号墳は７世紀初頭の築造と考えられ、横穴式石室前庭部からは墓道が、また石室からは出土例が少ない漆土玉23点が出土された。他にも耳環・直刀・鉄鏃なども出土している。

４号墳は６世紀末の築造とされ、ここから出土した須恵器大甕の内部にはムカデが潰されて焼かれた痕が残っており、非常に珍しい出土例と言える。

◀ ３号墳石室出土 耳環・漆土玉

小島田八日市古墳

▲ 遠景

小島田八日市古墳は、赤城山南麓に築かれた４世紀前半築造の古墳と推定される。古墳の出現が遅いと周辺で考えられていた旧勢多郡地域においては、初めて確認された前期古墳である。これまで最も古いとされていた今井神社古墳を１世紀ほど遡る。

墳丘は、３世紀末降下の浅間Ｃ軽石層の上に、４cm程の同軽石を含む黒色土層を挟んでこの上に構築されており、噴火から長い期間を経ずに築造されたと考えられる。現存した墳丘は原状の1/4以下であり、墳形・規模は不明である。墳丘は、外周部からドーナツ状に盛る土手状盛土によって構築する西日本的工法が用いられており、大和政権との関係が窺える。

▲「西日本的工法の構築様式図」 青木 2003

◀ 重圏文鏡（鏡背面）

古墳の本来の被葬者が埋葬された部分は、墳丘の大部分が削平されていたため、確認されなかったが、残存する墳丘の上部に別の人物を追葬した竪穴状の墓壙を確認した。この追葬部は、南北約5.5m、東西1.5mの大きさで、南側と北側に拳大の礫が積まれていた。木棺を置き、棺床に赤色顔料を塗布したとみられる。追葬部からは、重圏文鏡、ガラス小玉、鉄器が出土した。

元総社蒼海遺跡群

▲ 元総社蒼海遺跡群（137）八稜鏡（左）、五花鏡（右）

牛池川や染谷川に挟まれた位置にある元総社町は、上野国府や山王廃寺、国分僧寺・尼寺が造営され、古代の上野国の中心地であった。元総社蒼海遺跡群では、仏教信仰との関連をうかがわせる小金銅仏や、八稜鏡や五花鏡といった貴重な遺物が出土している。そのほかにも、白色で土師質の高坏や黒色土器といった都で用いられていた道具を模した珍しい遺物も見つかっている。

中世になると、長尾氏によって蒼海城が築城され、上野国府の地割を利用したとされている廓の配置は、碁盤の目状の構造を持った特徴的なものとなっている。

◀ 元総社蒼海遺跡群（99）高坏

推定上野国府跡

▲ 掘込地業を伴う建物跡

「国府」とは、律令体制下において当時の国ごとに置かれた役所のことであり、現在でいう都道府県庁のような役割を担っていた施設のことである。

過去の調査で「國厨」（役人の会食の場）「曹司」（役人の詰所）といった国府との関連を思わせる遺物が見られ、近年の調査でも、国府域の区画溝や、掘立柱建物、掘込地業を伴う礎石建物跡が相次いで発見されている。特に、牛池川周辺で見つかっている礎石建物跡については、倉庫跡であった可能性が高く、この地域一帯が役所の持つ倉庫群であったことが考えられる。これらの調査成果によって、おぼろげながらも着実に国府の所在および範囲が解明されつつある。

▲ 元総社小学校 掘立柱建物跡

上細井中西部遺跡群

上細井中西部遺跡群は、赤城南麓斜面末端の前橋市上細井町にある。発掘調査により、旧石器時代末、縄文時代前・中期、弥生時代中期、古墳時代中～後期から奈良・平安時代にわたる遺構と遺物を検出している。本格的な居住は古墳時代後期に始まり、奈良・平安時代まで集落が存続する。

▲ B工区4区、5区遠景

これまで赤城南麓地域の奈良・平安時代遺跡では、一般集落では認められない特殊遺構や遺物の出土例が多く、勢多郡家との関連が論じられてきた。本遺跡でも多くの官衙的要素が認められ、公的施設と考えられる掘立柱建物跡も検出されている。また、奈良時代の小鍛冶跡や多数の石製紡錘車が出土した焼失住居跡も検出され、さらに平安時代では、集落の中心的人物の居宅と考えられる住居から「石」、「石上」、「☆」と墨書された土器や石製の丸鞆、土製の紡錘車が出土している。

▲ 掘立柱建物跡

紡錘車は糸を紡ぐ道具で、石製、土製、鉄製のものがあり、「大」の線刻がある石製紡錘車も出土している。これほど多く出土することは珍しく、集落内での組織的な糸・布の生産が想定できる。

▲ 奈良時代焼失住居跡

▲ 平安時代竪穴住居跡

一方、丸鞆・巡方・鉈尾（帯の末端につけた金具）は官人が身につけるベルトの飾りで、石製および銅製のものがある。また、須恵器円面硯と小型の平瓶は役人が文書作成の際に用いたものと考えられる。これらの遺物から、税として郡家に収める糸・布の手工業生産と、それを管理・監督する律令制地方官人の存在が想定できる。そのために設置された郡家の現地出張所が掘立柱建物跡であったのかもしれない。

▲ 石製紡錘車出土状況

C工区から出土した「牛」の墨書と墨画（鬼か？）のある土器と「田」の刻書須恵器椀は、荒砥地区の柳久保遺跡群から出土した「田」、「田部」の墨書土器と鬼の絵が墨描きされた土器を想起させる。ここでは「田部」を称する農耕集団による水田祭祀が想定されているが、本遺跡も同様であったと推定できる。またA工区から出土した瓦塔片は、村落内の仏教信仰を覗わせる遺物である。

奈良・平安時代の上細井村落は、農耕を基本としながら小規模に小鍛冶等を行う自給自足的な生活を営む一方で、強制的に調・庸布の生産に駆り出された民衆の姿が見える。そこには当時広まりつつあった仏教信仰が、心のよりどころとしてあったのかもしれない。

▲ 銅製丸鞆・鉈尾

▲ 須恵器平瓶

▲「牛」の墨書・墨画土器

石神原遺跡

縄文時代から奈良・平安時代まで続く集落遺跡である。特筆する縄文時代の竪穴住居跡からは縄文時代前期の関山Ⅱ式の土器が出土した。細い竹を半分に割った工具や縄で施した文様、爪跡の文様が特徴的である。あわせて中部地方にみられる神ノ木式の土器も出土している。そのほか石鏃・石匙・スクレイパー類・打製石斧・石核・敲石・砥石も出土している。

1号住居(縄文時代)遺物出土状況▶

史跡 浅間山古墳

史跡浅間山古墳は、高崎市倉賀野町にある。墳丘の全長約171.5mであり、高崎市では最も大きい古墳である。古墳が築かれた4世紀においては東日本最大の規模を誇った。

平成30年に確認調査が実施され、外堀の範囲が判明した。幅10m～65mとややいびつな形状であり、堀を含めた古墳の規模は約332mに及ぶことが明らかとなった。関係者の協力により調査された遺跡の範囲は保存されることとなり、令和2年11月に文化審議会により国指定史跡に追加指定される答申があった。

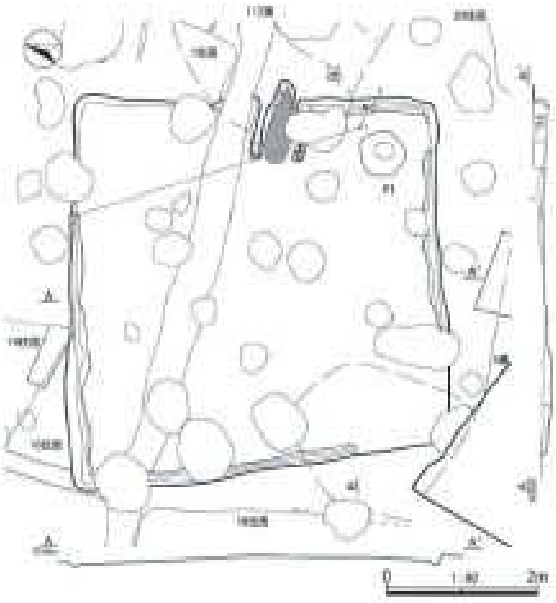
前方部外堀のさらに南側で実施された発掘調査では、前方部外堀東コーナー付近からの自然の谷が確認された。古墳周堀にたまった水が排水されていたことも予想される。

◀中堤の葺石

中大類金井遺跡(3次調査)

平成28年に集合住宅建設に伴う発掘調査が行われ、古墳時代後期から平安時代の住居跡が確認された。2号住居跡からは土師器の坏に入った状態で赤色土塊(赤玉)が出土した。

赤玉の原料は、段丘や丘陵に残存する赤土であると考えられ、玉状や団子状に成形して固めたものとされる。赤玉は径6cm程度で厚み3.5cm、重さ約200gで、赤玉の中では中形の大きさである。表面には小礫が混入し、やや粗い造りである。赤玉が入っていた坏は割れた状態で住居の壁際から出土している。6世紀前半～中頃と想



2号住居跡 平面図▶

定され、県内出土の赤玉のなかで最も新しい時期といえる。

赤色顔料としては古墳の石室・埴輪や土器の塗彩・非日常的な儀式の際の化粧などが考えられる。また、玉状や団子状に成形することで製品として流通や運搬などを意図した可能性もある。坏内に入れられた状態の赤玉は、保管や使用などを考えるうえで貴重な遺物である。

赤玉 出土状況▶

富岡下蔵遺跡

冥郷地域の鳴沢湖東に位置する遺跡である。奈良・平安時代にかけて17軒の竪穴住居を検出したほか、掘立柱建物跡が1棟検出された。出土遺物の年代から8世紀から11世紀にかけて営まれており、10世紀以降に住居数の増加があった。

▲ 小鍛冶遺構を備えた竪穴建物跡

12号住居では羽釜のほかに、鍛冶遺構が見つかり、羽口、金床石(右図)、椀型鍛冶鉄滓が検出された。10世紀以降の集落に小鍛冶遺構を備えた住居があったことがわかった。

倉賀野上樋越遺跡

倉賀野上樋越遺跡は倉賀野駅北側駅前ロータリー広場築造に伴う発掘調査である。奈良・平安時代の倉庫群が確認され、通常の集落遺跡とは異なる特徴が注目される。

高床式と考えられる掘立柱の総柱建物6棟が倉庫と想定され、そのほか、建物の周囲のみに柱を持つ側柱建物2棟が見つかっている。これら建物群は条里地割に沿った東西の道路遺構によって区画されている

▲ 倉賀野上樋越遺跡第3次調査 全景(北東から)

これらの掘立柱建物群の近くに、灰層が広がるくぼみ(SX 1)が見つかり、多くの遺物が出土した。ここから完形で出土した灰釉陶器椀は伏せられた状態で見つかった。この椀の内側には葉脈の痕跡が付着しており、葉を敷いていたと思われる。そのほか緑釉陶器、耳皿、碁石なども出土し、遺構の特殊性を示している。別遺構からは奈良三彩も出土している。

この遺跡は9世紀代が最盛期と思われる。年代観もあわせてその性格を考えてみると、①郡家・郷家のような公の施設、②豪族の居宅、③荘園関連施設、④寺院などが挙げられる。

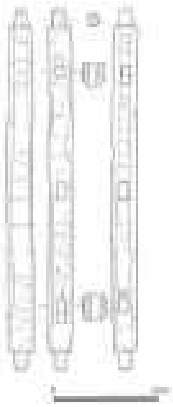
◀SX 1 灰釉陶器出土状況(北西から)

浜尻村西遺跡

土地区画整理事業にともない、平成10年から平成26年にかけて調査された遺跡である。

遺跡は古墳時代から平安時代にかけてのムラの跡および、戦国時代に築かれた城館跡からなる複合遺跡である。

城館の井戸からは木材が出土したが、これは機織り機(地機)の部品であった。3点出土し、「クルリ」、「沼木」の一部分、機織り機の機台枠の横部材の可能性がある部品と推定された。この機織り機の部材について、詳しい年代測定は行っていないが、城館が営まれた時代に使われていたのかもしれない。

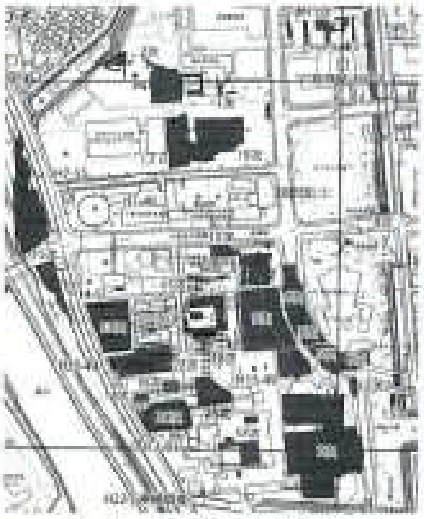


▲クルリ

機台枠▶

高崎城遺跡(22～25次調査)

古墳時代には石製模造品の製作工房があり、祭祀用具などを制作していた。奈良平安時代には寺院があったようで、多量の瓦が出土する。室町時代以降には和田城が築かれ、後に甲斐武田氏と越後上杉氏の争奪戦がおきた場所でもある。江戸時代には高崎城がおかれ、交通の要衝として、現在の市街地の礎ができ、その繁栄ぶりがうかがえる資料が出土している。

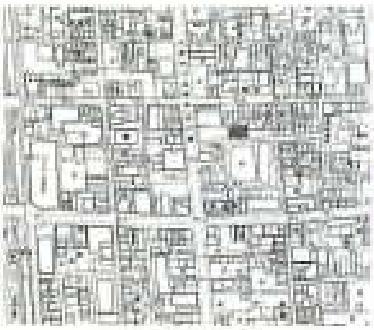


▲ 1～25次の調査場所

▲ 23次調査(南から撮影)

連雀町遺跡

平安時代の終わりごろまでは水田地帯で、江戸時代の城下町形成で造成された。この時代の地層には火事の痕跡が残ることがあり、古文書の記録と照合し、生活面の細かな年代特定が可能となる。



▲ 調査場所

▲ 調査地(南から撮影)

前橋市・高崎市の遺跡位置図

今年度紹介している主な遺跡の所在地です。
前橋市・高崎市の史跡などの名称を色を分けて表示しています。

高崎市
- ❶ 高崎城遺跡
- ❷ 連雀町遺跡
- ❸ 富岡下敷遺跡
- ❹ 石神原遺跡
- ❺ 中大類金井遺跡
- ❻ 史跡 浅間山古墳
- ❼ 浜尻村西遺跡
- ❽ 倉賀野上宿遺跡

前橋市
- ❶ 遠見山古墳
- ❷ 上細井中西部遺跡群
- ❸ 元総社蒼海遺跡群
- ❹ 推定上野国府跡
- ❺ 小鳥田八日市古墳
- ❻ 小稲荷遺跡群西大室七ツ石遺跡

前橋市展示概要

前橋市では、公共や民間開発事業に伴う発掘調査のほか、上野国府（こうずけこくふ）や総社古墳群（そうじゃこふんぐん）といった重要遺跡の範囲確認調査を進めており、多くの成果を上げつつある。近年の調査状況としては、主に古墳時代～古代にかけての調査事例が目立ち、多くの知見を得ることができた。

今回の展示では縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代の各遺跡の特筆すべき調査成果を紹介している。

前橋市の文化財について、詳しくは「前橋フィールドミュージアム」をご覧ください。

前橋フィールドミュージアム

高崎市展示概要

日本全国では年間約9,000件の発掘調査が行われており、その多くが「記録保存」を目的としたものである。記録保存とは開発工事で破壊される遺跡において、工事に先行して発掘調査を行い、記録（発掘調査の際得られた、記録図面・写真・遺物）として保存することである。

現在、高崎市内で行われている発掘もその多くが記録保存のための発掘調査であり、様々な開発により姿を消してしまう遺跡の記録に努めている。しかし、それ以外にも遺跡の保存・活用を目的として発掘調査の重要性にも注目が集まっている。

前橋会場　2021年1月7日(木)から12日(火)まで

問い合わせ先：前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371-0026 前橋市紅雲町3-11-4
TEL 027-280-5511　FAX 027-251-1700

会場：臨江閣別館 1階 西洋間
〒371-0029 前橋市大手町3-15
TEL 027-231-5790
※展示中の休館日はありません。

高崎会場　2021年1月16日(土)から24日(日)まで

問い合わせ先：高崎市教育委員会事務局文化財保護課
〒370-0801 高崎市高松町35-1
TEL 027-321-1290　FAX 027-328-7995

会場：高崎シティギャラリー 2F 第3展示室
〒370-0850 高崎市高松町35-1
TEL 027-328-5050
※展示中の休館日はありません。